

6月26日～28日にケニア・ナイロビで開催される国際赤十字・赤新月社連盟のGlobal Innovation Summitで国際救援技術部門の企画セッションが採択され、首長部門長が燃料電池車等の取り組みについて講演されます！

講演の要旨について以下のとおり掲載します。

国際赤十字は、2021年5月、国際赤十字は「人道団体のための気候・環境憲章」を採択しました。

気候変動対策においては、温室効果ガスの排出を削減する「緩和」(Mitigation)と、気候変動の悪影響を軽減する「適応」(Adaptation)を車の両輪として推進することが求められています。

災害救援技術部門は、平常時に温室効果ガスの排出を削減(緩和)し、かつ、災害対応にも役立つ新技術の普段使い(適応)を通じて、災害に強い社会を構築するという、新たな災害対策モデルの構築に取り組んでいます。

例えば、熊本赤十字病院がトヨタ自動車と共同実証を進めている燃料電池医療車は、平常時は患者搬送における脱炭素を推進しつつ、災害時には燃料電池から避難所や医療機器への電力供給に役立ちます。また、医療ドローンは、平常時は医療物流における脱炭素に貢献する一方、災害時には孤立地域等への医療物資等の搬送に役立ちます。そして、昨年11月、北海道の根室市における津波避難訓練で実証試験を行った携帯電話の位置情報データは、平常時は交通渋滞等の把握、分析で脱炭素に役立つ一方、災害時には被災者の位置の迅速な特定に貢献します。

今回の企画セッションで、本部門が提案する独自の災害対策モデルを国際赤十字の多くの仲間と共有することで、新たなイノベーションの創出に貢献したいと思います。

ホームページ

<https://solferinoacademy.com/ifrc-global-innovation-summit-2023/>